

平成28年度 府立西城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

| 学校経営方針（中期経営目標） | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点（短期経営目標） |
|--|---|---|
| <p>◎「部活動の盛んな進学校」として、高いレベルでの「文武両道」を実践できる生徒を育成する。</p> <p>◎「当たり前前」のことが当たり前前にできる」を基本とする生徒指導を通じて、生徒の高い規範意識を育成する。</p> <p>◎学校生活のあらゆる場面で、粘り強く自己の目標に向きあう姿勢を養うことで、生徒の人間の成長を促す。</p> | <p>①「部活動の盛んな進学校」を真に具現化するために、平成25年入学生から導入した新コース3年目の取組として、CS発展クラス的位置付けの明確化(学習合宿等への参加、文理系的位置付け等)、土曜補講の充実を図り、特に1年生の参加者が大幅に増加した。</p> <p>②グローバルネットワーク校として、1・2年生GSコース全員が論文や英語プレゼンテーションに参加し、交流会で入賞を果たすとともに、1年CS発展クラスがポスターセッションに参加する等、学校全体の取組として、質的に大いに進化した。</p> <p>③教育相談会議を中心に、担任と教科担当・保健部等が密接に連携し、スクールカウンセラーや外部機関の協力を得ながら、課題を抱える生徒一人一人に対して組織的にきめ細かく対応できた。</p> <p>④学校案内やパンフレットの改良、生徒による学校紹介等学校説明会の改善、ホームページの頻繁な更新等、情報発信に精力的に取り組んだが、中期選抜では、最終的な志願者が定員に達しなかった。志願者確保のためにも、本校の魅力を高め、本校に対する信頼を高める努力がさらに必要である。</p> <p>⑤生徒指導上の大きな問題は発生せず、挨拶や身だしなみも良好で、遅刻者数も少なく、落ち着いた学習環境を維持できた。しかし、生徒の行動に規範意識の低下が見られるケースがわずかだが増加しており、指導の強化が必要である。</p> <p>⑥アンケートで「家庭学習の習慣が定着している」と回答した生徒が、1・2年生で約4割程度にとどまっている。家庭との連携を強化するとともに、生徒の自己管理能力を育成するとともに、学習と部活動の両立に向けて、学校全体で取り組む必要がある。</p> <p>⑦模擬試験の結果や進路結果を見る限り、学力的に上位層が伸び悩んでいる傾向がある。入学した生徒の学力を伸ばす指導を徹底するために、早い段階での学習習慣の定着と、授業や指導方法の改善に向けて、真摯に取り組む必要がある。</p> <p>⑧平常清掃や月例大掃除等によって、校内美化は一定水準で保たれているが、本校が目指すレベルには達していない面があり、生徒の美化意識の向上のために、教職員の共通理解を徹底する必要がある。</p> <p>⑨登下校時の安心安全の確保のために、携帯電話(スマホ)に対する指導の方向性を早急に明確にするとともに、校外や自宅での携帯電話(スマホ)の使用マナーや安易な利用の危険性について、指導を徹底する必要がある。</p> | <p>○全体目標：「部活動の盛んな進学校」として、3年間を見通したコースの取組と学びの系図を深化させ、低学年次からの学習習慣の定着と授業改善により、生徒の学力向上を図り、生徒全員の希望進路を達成する。</p> <p>この目標実現のために、次の①～⑥に重点的に取り組む。</p> <p>①各コースの特色化：すべての生徒が自己の個性と能力を最大限に伸ばすことができるように、コースごとの系統的で特色ある学びを充実させる。</p> <p>②教科指導：自己管理能力の育成に努め、家庭での学習習慣を確立させるとともに、主体的な学びを引き出す授業への転換を図る。また、的確な課題分析を行い、個に応じた指導を徹底することで、希望進路を実現できる学力を育成する。</p> <p>③広報活動と教育活動の充実：本校で学ぶ意欲を持った生徒の入学を促すため、「西城陽高校の良さ」を的確な内容で積極的に発信するとともに、行事の改善や進路実績の向上等、本校の魅力を高め、本校に対する信頼を高める。</p> <p>④生徒指導：生徒の登下校時の安全確保を目指すとともに、規則正しい生活習慣と高い規範意識の育成に努め、校外で西城陽高校生としての自覚を持たせる。</p> <p>⑤保健指導：校内外の環境美化を推進し、本校が目指す美しく爽やかな学習環境の維持向上を図り、学びやすい環境を確立する。</p> <p>⑥部活動：部活動を奨励するとともに、スポーツ総合専攻コースを持つ学校として、ワンランク上の目標を定め、チャンピオンスポーツを目指す。</p> |

| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 | |
|-------------|------------------------------|---|-------|------|------|-------|---|
| | | | 具体的方策 | 重点目標 | 評価領域 | | |
| 組織・運営 | 特色ある教育活動の推進 | ◆3年間を見通した系統的な教育活動が実施できるよう、GS・CS・SS各コースの縦の連携を強化する。また、平成29年度入学生から導入するコース別研修旅行の具体化を図る。 | 1 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・GSのグアム研修及びCS・SSの屋久島研修について、行程を決定し、中学生に広報することができた。 ・3年生及び2年生で独自の主権者教育を実施し、生徒の意識啓発ができた。新聞各紙が取り上げ、注目を集めた。 |
| | 主権者教育の推進 | ◆選挙権年齢の引き下げに伴って、生徒が主権者としての資質を身に付けられるよう、主権者教育の実施計画を策定するとともに、学校全体で実践に取り組む。 | 2 | A | | | |
| 家庭・地域社会との連携 | 地域貢献の推進・開かれた学校づくりの推進 | ◆地域清掃に学校をあげて取り組むとともに、部活動やボランティア生徒による地域行事への積極的参加を推進する。 | 3 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・合唱部や吹奏楽部の地域での演奏活動に加えて、生徒会による地域ボランティア活動を充実させることができた。 |
| 教育課程 | 平成30年度入学生教育課程の編成 | ◆より大学入試に対応しやすい教育課程を目指すとともに、新学習指導要領で導入される「総合的な探究の学習」を意識しながら、現行教育課程の改善を行う。 | 4 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・理系生徒の進路保障のために、3年間を見通した理系科目配置を行うとともに、「総合的な学習の時間」に探究活動を盛り込んだ方向で改善することができた。 |
| 学習指導 | 学習習慣の確立と主体的な学習態度の育成、教科指導力の向上 | ◆家庭学習習慣を定着させるために、各教科から適切な課題を出すとともに、生徒自身に家庭での生活を振り返らせ、学習時間を確保させる。 | 5 | B | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・1年生に「NJ手帳」を導入し、ホームルームや授業時に記入させることで、計画的に物事を進める習慣を育成できた。 ・教員間の公開授業を年3回行い、内1回は、保護者に加えて、今年度初めて中学校教員にも参加を呼び掛けて、公開授業を実施した。 ・部活動ごとの活動目標も考慮しながら、部活動と家庭学習の両立が図れるように、活動時間を整理する必要がある。 |
| | | ◆公開授業、研究授業を計画的に行い、参観者を増加させ、意見交流ができる環境作りを行う。また、中学校や保護者にも参加を呼びかけて、本校教育に対する理解を広げる。 | 6 | B | | | |
| | | ◆1年生の自己管理能力を高め、計画的・主体的に生活する力を育成するために、関係教員が「NJ手帳」の利用を徹底して指導する。 | 7 | A | | | |

| | | | | | | | |
|---------|--------------------------------|---|----|---|---|---|---|
| | 次期学習指導要領と大学入試新テストを意識した指導の改革の推進 | ◆授業を改善し、生徒が主体的に学ぶ姿勢を引き出すために、プロジェクトチームを中心に、アクティブラーニングの実践的研究に取り組む。 | 8 | A | A | | <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングに対する教員の理解が深まり、実践する教員が増加した。ICT活用も格段に広がってきた。 ・アクティブラーニング型授業に学校全体で取り組み、成果を共有する体制が求められる。 |
| 広報活動 | 中学校訪問と学校説明会等の充実による本校志願者の確保 | ◆ホームページや広報紙、パンフレット等を有効に活用し、「西城陽高校の良さ」を的確な内容で積極的に発信する。また、本校の魅力をアピールできるよう、学校公開や説明会の改善に取り組む。 | 9 | B | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのリニューアルを行い、デザイン性・操作性の向上とともに、スマートフォンにも対応できるものに改良できた。 ・学校説明会は、在校生に活躍の場を与えること等により、大変好評であった。 ・結果的にスポーツ総合専攻を除いて、志願者が定員に達しない状況が生じた。制度的・構造的な要因もあるように思われるが、地道に本校の良さを理解してもらう努力が必要である。 |
| 健康・安全教育 | 特別支援を必要とする生徒に対する組織的対応の推進 | ◆日常の生徒観察を重視し、「気になる生徒」の情報を教科担当者と学年部・保健部で共有し、教育相談会議との連携を図りつつ、生徒の心の変化に対応して早期に援助する。 | 10 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談会議での情報共有を綿密に行うとともに、外部の諸機関との連携を緊密に図りながら、課題を抱える生徒の支援を組織的に行い、成果を上げた。出身中学校との連携については、今後さらに強化する必要がある。 ・ごみの分別を重点的に指導し、資源ごみの持ち帰りを徹底させることで、大きく改善した。 |
| | 校内美化意識の確立と校内美化の維持 | ◆日々の清掃活動や月例大掃除を通じ、美化意識・公共心を養い、良好な学習環境を自分たちで作り出す意識を育むとともに、教職員が高い意識をもって清掃指導にあたるよう、共通理解を図る。 | 11 | A | A | | |
| 生徒指導 | 基本的生活習慣の確立 | ◆挨拶の励行や正しい制服の着こなし、遅刻の防止等、西城陽高校生としてふさわしい基本的生活習慣の確立のため、校内のあらゆる場面で意識的に声かけを行う。 | 12 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や身だしなみは概ねできており、規律正しい学校の雰囲気は保たれている。 ・携帯電話の指導に関して、登下校の安全確保のために、来年度から、誓約書を提出させて、学校への持ち込みを認める方向 |
| | 道徳心の育成と規範意識・人権意識の確立 | ◆良好な人間関係を深めさせるために、学校行事や部活動、ボランティア活動等に積極的に参加するよ | 13 | A | A | | |

| | | | | | | | |
|---------|----------------------------------|--|----|---|---|---|---|
| | | う働きかけるとともに、集団行動を通して、周囲への心遣い・基本的人権を尊重する態度を育てる。 | | | | | にルール変更を行った。誓約事項を順守させる指導体制を確立する必要がある。 ・朝遅刻する生徒が若干増加している。保護者との連携を強化し指導にあたる必要がある。 |
| | 登下校の安心安全の確保 | ◆登下校時の安心安全の確保のために、携帯電話(スマホ)に対する指導の在り方について方向性を示し、指導を徹底する。 | 14 | A | A | | |
| 進路指導 | 生徒一人一人のキャリア発達の支援とキャリア形成のための指導の充実 | ◆生徒の希望進路実現のために、個人面談・進路希望調査・生活学習実態調査・実力テスト・模擬試験等の結果を積極的に活用し、生徒の進路希望と学力実態の把握に努め、個に応じた適切な指導を行う。 | 15 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査や模擬試験の結果等を基に、生徒一人一人に対して面談を行い、状況の把握と情報提供を丁寧に行った。 ・3年生の進路検討会を多数の関係教員が参加して繰り返し開催し、情報共有を行ったことが今年度の成果に繋がった。 ・保護者対象進路説明会と三者面談を年1回行うとともに、進路だよりを定期的に発行し、生徒・保護者に対して情報発信を行ってきたが、ホームページの活用等、保護者に対する情報提供の方法を、さらに工夫する必要がある。 |
| | | ◆「キャリア教育」の観点から、授業やLHR等あらゆる機会を利用して、生徒に卒業後の自分の進路をしっかりと考えさせ、社会人として必要な力を身につけさせる。 | 16 | A | A | | |
| | 進路選択に対するモチベーションを高めるガイダンス機能の充実 | ◆教職員が連携して、早期から保護者・生徒に適切な情報発信を行うとともに、進路検討会等を通して情報の共有化を図り、きめ細やかな進路指導を行う。 | 17 | A | A | | |
| 読書指導 | 読書活動の推進と図書館利用の充実 | ◆「図書館だより」、読書啓発冊子、新着図書を紹介、ビデオ上映等により図書館に興味を持たせるとともに、ホームルーム活動や授業を通して読書活動を推進する。 | 18 | A | A | A | ・ベランダの読書スペース設置等、図書館内の環境作りに努め、来館者は増加したが、貸出冊数は伸び悩んだ。言葉の力の育成のためにも、学校を挙げて読書推進に努める必要がある。 |
| 教育環境の整備 | コースの特色化に寄与する学校設備・備品の充実 | ◆全教職員が十分に連携を取り、質の高い教育環境づくりに取り組むことで、各種事業の取組を効果的に進める。 | 19 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板やサーフェスの整備により、ICT活用授業の環境が大きく前進し、多くの教員が活用している。 ・各種の支援制度や奨学金制度等に関して、「お知らせメール」等を通じてタイムリーに情報発信を行った。今後、リニューアルされたホームページを積極的に活用し、さらなる情報発信を行うことが求められる。 |
| | 生徒の就・修学支援の充実 | ◆PTA「お知らせメール」の活用や、教室内や廊下等の掲示板を活用し、各種支援制度や奨学金制度、あるいは徴収案内について、十分な周知を図る。 | 20 | A | A | | |

| | |
|------------------------|--|
| <p>学校関係者評価委員会による評価</p> | <p>①携帯電話の校内持込みを認めることについては、以前から学校に求めてきたところだが、来年度からルール変更をする決断をされたのはとてもよいことだと思う。学校が時代の流れを受け止めて自己変革していくことは大切である。</p> <p>②現行の入試制度の下で、第2志望で合格した生徒が卒業しているのか点検する必要がある。学力的についていけなくて途中でやめていく生徒がいる高校があるように聞いている。本校でもしっかり学力をつけさせ、「西城陽に来てよかった」という思いをもって全員を卒業させて欲しい。</p> <p>③「西城陽は厳しくてつらい」というイメージが、特に昔の西城陽を知っている人の間に残っているが、今の西城陽は、生徒が優しく、全員が楽しく学校生活を送っていることを外部にもっとアピールすべきである。一番の広報は、卒業生が母校のことを誇りをもって語ることである。国公立大学等の進路実績も大切だが、高校生活がすべての生徒にとってさらに充実したものになるように工夫して欲しい。</p> <p>④今年度入学生からグアム研修が導入されたようだが、海外研修は中学生にとって魅力的であると思う。屋久島研修についても、十分貴重な経験になるように思う。</p> <p>⑤地元中学校からの志願者を増やすためには、地域の塾にきちんと説明をすることも一つの有効な手段になり得ると思う。</p> |
| <p>次年度に向けた改善の方向性</p> | <p>①アクティブラーニングを取り入れた授業改善に全教職員で取り組むことで、生徒の主体的な学習態度を引き出し、学力向上につなげるとともに、授業におけるICT活用についての研究に組織的に取り組み、授業の活性化を促進する</p> <p>②部活動ごとの目標を考慮しながら、学校全体として部活動時間を整理するとともに、1・2年生に導入する「N J手帳」を有効に利用させることで、生徒の自主管理能力を育成し、生徒の家庭学習時間を確保させる。</p> <p>③携帯電話に関するルール変更に伴い、学校内外での携帯電話の扱いについて、指導体制を確立する。</p> <p>④リニューアルしたホームページを積極的に活用することで、保護者や中学生等に対する情報提供を充実させ、本校の教育の成果や教育目標への理解を広げることで、本校への志願者を増加させる。</p> <p>⑤成績評定に関して再点検するとともに、分掌・教科間の連携を強化して組織的に進路指導を推し進め、生徒の希望進路実現を図る。</p> |